

研究の概要

進行性核上性麻痺は転びやすい飲み込みにくいなどの症状がみられる。現在、水分でむせりがあり、嚥下機能評価が必要であると考え。また、自力摂取しているが、一口量が多くなったり、かきこむ様に食べる様子があり、窒息や誤嚥のリスクがある。そのため、嚥下機能に合った食内容、食事摂取方法の検討を行い、安全に食事摂取ができる方法を明らかにすることで、ADL QOLの向上、看護の質の向上に繋がると考える。

研究期間

承認日より2023年2月28日まで

研究機関の名称及び研究機関の長

独立行政法人国立病院機構山形病院
院長 川並 透

研究責任者の氏名

看護部1病棟
看護師 押野 健大

オプトアウト

特記なし